

WORLD ROWING U23 CHAMPIONSHIPS 2014 REPORT 11(7/27)

早いもので大会も最終日となった。本日のレースは、BLW1x決勝B、BLW2x決勝B、BLM4-決勝Aの3種目である。昨日でレースを終了した選手たちが、レースのあるメンバーのサポートやチーム荷物の後片付け等積極的に動いてチームとして最終日を戦う態勢が出来上がっていた。

レースのある選手たちは、他のメンバーの思いを乗せて最終日を漕ぎ切ることを胸に誓っていた。

9:30 BLW1x 決勝B

最終日の最初のレース。スタートより積極的に飛び出し磨き続けてきたトップスピードを見せつけた。500mを2位フランスに1.11秒差をつけるトップで通過すると、第2クォーターも非常にスムーズな漕ぎを表現し1000mを2位に浮上したデンマークに1.86秒差をつけトップ通過。会場アナウンスでも「Japan」「Maki Noda」の連呼に加え「smooth Rowing very good!」の声が聞こえた。しかし第3クォーターに入るとフランスがギアチェンジし徐々に差を詰めはじめた。ここから日本、デンマーク、フランスの3か国にトップ争いが絞られ戦いがヒートアップする。1500mもトップで通過ながらも3位デンマークまで0.77秒差のきわどい戦い。第4クォーターでの激しい仕掛けあいの中で日本も必死にスパートするもフランス、デンマークに逆転を許しトップフランスと5.1秒差の3位でゴール。全体では9位で大会を終えることになった。



大型スクリーンにてBLW1xレース前半の様子が映し出される。画面手前が納田選手(関西電力小浜)



ゴール前最後の力を振り絞るBLW1x納田選手(関西電力小浜:写真手前)

10:07 BLW2x 決勝B

スタートから思い切り行くもチェコをはじめとする各国のスピードに押され500mをトップと4.84秒差の6位で通過。苦しい出足となるが、状況を好転させようと第2クォーターも必死に食らいつく。1000mの通過はトップのチェコと6.81秒差の6位。ここでチェコ、ドイツ、ハンガリーがトップ争いで抜け出し、日本はスペイン、ポーランドとの4位争いのグループに位置することになった。ここからクルーの持ち味を発揮し怒涛の追い上げが始まった。逃げるポーランド、スペインとの差をじりじりと詰め1500mではスペインに完全に並びかける。第4クォーターに入り間もなくポーランドを抜き去り、3位チェコとの差を観客席の前でみりみりと縮めレースを大いに盛り上げるが僅かに届かず4位でゴール。全体では10位であった。

後半1000mと第4クォーターの500mのラップタイムは決勝B中トップをマークし、ポテンシャルの高さを感じさせた。



1800m付近にてラストスパートに入るBLW2x
写真中央のレーン 左より B川本選手(日本体育大)、
S富田選手(明治大)



BLW2xゴール前の力漕
写真中のレーン 左よりB川本選手(日本体育大)、
S富田選手(明治大)

12:15 BLM4- 決勝A

地元イタリアの活躍もあり異常に盛り上がる雰囲気の中、日本最後の種目BLM4-がスタートした。スタートはトルコが飛び出し他は横一線。日本もしっかりついていく。500mの通過は5位ながらトップのトルコとは2.17秒差。3位イギリスとは1.3秒差とメダル射程圏内にいる。第2クォーターに入るとスペイン、イギリス、イタリアがトルコをかわしトップ争いを繰り広げる。日本はここでやや出遅れ1000mをトップと4.06秒差、3位イギリスとは2.32秒差で通過するがまだ十分射程圏内である。

第3クォーターに入ると上位4クルーの争いは加速し、日本は次第に遅れはじめる。スタートで驚異的な飛び出しを見せたトルコをかわし5位に浮上するも1500mの通過ではトップグループから6秒以上離されてしまった。第4クォーターでも必死に追撃するが及ばず5位でゴール。念願のメダルには届かなかったものの、世界最高の舞台で見事な漕ぎを見せてくれた。



出艇前の最後のミーティング



1800m付近でラストスパートに入るBLM4-クルー
左より 平木選手(一橋大)、中村選手(一橋大)、佐藤選手(日本大)、奈良選手(日本大)

最終順位

BLM1x 15位 S古米峻知(日本大)
BLM2x 18位 S山口健太(日本大)、B濱上裕士(関西電力美浜)
BLM2- 8位 S藤田陸(一橋大)、B林靖晴(中央大)
BLM4- 5位 S奈良和紀(日本大)、3佐藤翔(日本大)、2中村澄人(一橋大)、B平木漠(一橋大)
BLW1x 9位 S納田麻妃(関西電力小浜)
BLW2x 10位 S富田千愛(明治大)、B川本藍(日本体育大学)
BW1x 14位 S榊原春奈(早稲田大)



余談ではあるが、世界各国から選手が集まる大会で、アスリートレストランを受け持つ地元のレストランが名称を日本語で表示してくれていた。恐らく滞在中の日本の選手たちの行動が現地の人々に好意的に受け入れられていたのだろう。

「ご声援ありがとうございました」

～2014 World Rowing Under 23 Championships日本代表選手団一同～



後列左より、佐藤(BLM4-)、森山(サポートコーチ)、平木(BLM4-)、小形(チームドクター)、藤田(BLM2-)、奈良(BLM4-)、林(BLM2-)、濱上(BLM2x)、中村(BLM4-)、中上(チームリーダー)、古米(チームサポート)
前列左より、青木(トレーナー)、榊田(コーチ)、古米(BLM1x)、齋藤(マネージャー)、富田(BLM2x)、川本(BLM2x)、榊原(BW1x)、納田(BLW1x)、山口(BLM2x)